

アラビア語エジプト方言¹⁾における所有表現

- bitā' の用法を中心に -

Soliman, AlaaElDin (東京大学大学院博士課程)

榮谷 温子 (国立国会図書館・非常勤調査員)

0 はじめに

本研究では、アラビア語エジプト方言における所有表現、特に bitā' の用法を中心に考察する。

この研究のきっかけとなったのは、榮谷の博士論文執筆の際のソリマン他との聞き取り調査である。その際、アラビア語方言で所有を表現する場合に、bitā' (エジプト方言) や ta' (マルタ方言) の用いられる場合と用いられない場合のあることがわかったが、時間的に余裕がなく深く追求できなかった。

口語には、エジプト方言の bitā'、マルタ方言 (マルタ語) の ta'、モロッコ方言の dya' など、正則アラビア語には見られない独自の所有表現がある。今回はそれらのうち、アラビア語エジプト方言の bitā' を取り上げ、その用法を、名詞・代名詞の属格形のみを用いる表現との違いを中心に、明らかにしていきたい。

1 エジプト方言における所有表現

1.1 所有表現の種類

エジプト方言で所有およびそれに類似した関係を表現するには、いくつかの方法がある。

まず、ある名詞の後に、代名詞の斜格形²⁾あるいは名詞・固有名詞をそのまま置く方式。例えば、

- 1) bēt 'Alī³⁾
家 アリー
アリーの家
- 2) bēt -u
家 -3m sg obl
彼の家

これは正則アラビア語とも共通する言い回しである。

次に、本研究の主眼でもある bitā' を用いる方式。bitā' は、正則アラビア語に見られない口語独自の表

1) 本研究のインフォーマントは、ソリマンを含めて3人ともカイロ方言の話者である。

2) アラビア語の代名詞には、独立語として用いられる主格形と、名詞・動詞の後に付随して用いられる斜格 (対格・属格) 形とがある。

3) 以下、例文等でアラビア語を示す際には、末尾の Appendix に掲げた表記を用いる。他の文献からアラビア語の例を引用する場合も、この表記法に直して書き表すこととする。

現である⁴⁾。例として、

- 3) il- bēt bitā^ʕ ʕAli
def- 家 (所有) m sg アリー
アリーの家
- 4) il- bēt bitā^ʕ -u
def- 家 (所有) m sg -3m sg obl
彼の家

この場合、bitā^ʕ に後続するのが限定名詞句なら、bitā^ʕ に先行する名詞句は限定辞⁵⁾を伴わなければならない。逆に、bitā^ʕ に非限定名詞句が後続する場合は、bitā^ʕ に先行する名詞句も非限定となる：

- 5) šaṇṭa bitā^ʕit kutub (Salib 1981: 198)
かばん (所有) f sg 本 pl
本を入れる鞆

また bitā^ʕ は、所有される対象の性・数に一致した変化形を持つ。上の例のように、所有される対象が男性単数の場合は bitā^ʕ、女性単数及び人間でないものの複数⁶⁾のときは bitā^ʕit、双数や人間の複数、時には人間でないものの複数のときにも bitū^ʕ が用いられる：

- 6) il- madrasa bitā^ʕit ʕAli
def- 学校 f sg (所有) f sg アリー
アリーの学校
- 7) ik- kitābēn bitū^ʕ -ak
def- 本 du (所有) pl -2m sg obl
貴男の2冊の本
- 8) ik- kutub bitā^ʕt⁷⁾ -u / ik- kutub bitū^ʕ -u
def- 本 pl (所有) f sg -3m sg obl def- 本 pl (所有) pl -3m sg obl
彼の(複数の)本

さらに bitā^ʕ に先行する名詞句は、文脈や状況で明らかな場合には、省略することも可能である：

- 9) bitā^ʕ il- ʕēš ga . (Salib 1981: 198)
(所有) m sg def- パン 来る pf 3m sg
パン屋さん (<パンの{男}>) が来た。

4) この語源は、後続する、所属する等の意味を表す動詞 taba^ʕa から派生し、その t と b が転換したものであろう (黒柳・飯森 1976: 177) という説もあれば、財産・所有物あるいは需要の達成を意味する matā^ʕ との関連を指摘する向き (Ad-Dusūqī 1920: 287-288, Al-Tonsi 1987: 73) もある。

5) 限定辞 il- の l は、その後に次の子音が来た場合、それらに逆行同化する：t, ṭ, d, ḍ, n, s, ṣ, z, ḏ, š, r, k, g。

6) アラビア語では、人間でないもの (無生物や動植物など) の複数を文法上、女性単数として扱うのが一般的。

7) bitā^ʕit + -u > *bitā^ʕt-u > bitā^ʕt-u

これら以外に、li-(~のため、for) のような前置詞を用いた表現も可能である⁸⁾。

10) il- hideyya **li** 'Ali
 def- 贈り物 ~のための アリー
 アリー(へ)の(特定の)プレゼント

11) hideyya **l** -uh
 贈り物 ~のための -3m sg obl
 彼(へ)のあるプレゼント

本研究では、アラビア語エジプト方言における bitā' の用法を、特に名詞・代名詞の属格形のみを用いる表現と比較しつつ、考察する。

1.2 bitā' の用法に関する先行研究

bitā' を用いた表現が、名詞・代名詞の属格形のみを用いる表現と交換可能な場合の多いこと、しかし、いずれか片方しか使えない(あるいは交換してしまうと意味が変わってしまう)場合がいくつかあることが、既に指摘されてきている。

本節では bitā' の使用範囲やその義務的使用と選択的使用とに関する先行研究を取り上げる。

1.2.1 bitā' の意味

まず Badawi & Hinds (1986: 51) では、bitā' の意味を次の6項目9種類に分類して説明している：

- 1 a 所有 ('il-musaddas **bitā'**-i 私のピストル)
- 1 b 付属 ('il-farāmil **bitā'**it il-'arabiyya 車のブレーキ)
- 2 a 連携 ('ir-rāgil **bitā'** il-'ūṭa トマトを伴う男、すなわちトマト売り)
- 2 b 傾向 (kalām **bitā'** sittāt 女のような言葉遣い)
- 3 属格関係 ('il-'asār **bitā'**it Maṣr エジプトの遺跡)
- 4 近似 (**bitā'** sā'a およそ1時間の)
- 5 ~か何か (ruḥna s-sū' wi-**btā'** ⁹⁾ 市場とかに行った)
- 6 a 何とかいう人/もの、名前を知らなかったり使いたくないときなどに代用する語。
- 6 b 性器

bitā' が、所有やそれに準ずる関係を示すだけに限らず、幅広い意味をもつことが示されているが、ただこ

8) また、こうした前置詞を用いて、次のような文を作ることもしできる：

li -yya 'ixwāt kitīr.
 ~に -1sg gen 兄弟 pl たくさん
 私には兄弟がたくさんいる。

9) wi + bitā' > wi-btā'

ここでは、bitā^ʿ と、名詞・代名詞の属格形のみを用いる表現との共通点や相違点は全く述べられていない。

1.2.2 bitā^ʿ を用いて表わされる関係

Al-Tonsi et al. 1987. は bitā^ʿ について、「一般的に、人間同士の関係あるいは体の部分との関係、場所の明示のためには用いられない (p.71-72)」、すなわち、そうした関係は名詞・代名詞の属格形のみを用いる表現で表わされると述べ、bitā^ʿ が主に用いられる関係を、以下の3つに整理している (p.72)：

物 - 物	il- bāb bitā ^ʿ	il- 'ōḍa
def- 扉	(所有) m sg	def- 部屋
その部屋の扉		
物 - 人間	ik- kitāb bitā ^ʿ	Muna
def- 本	(所有) m sg	モナ
モナの本		
人間 - 物	il- muwazzaf bitā ^ʿ	il- ḥisabāt
def- 職員	(所有) m sg	def- 会計
会計係		

人間 - 人間 について bitā^ʿ が用いられるのは、以下の4つの場合に限定されるとする (p.72-73)：

1) 親族関係・友達関係で以下のもの：

is- sitt bitā ^ʿ t -i	/	ir- rāgil bitā ^ʿ -i
def- 女 (所有) f sg -1sg gen		def- 男 (所有) m sg -1sg gen
俺の女房 (低階層の方言)	/	私の夫 (田舎の方言)
il- bint bitā ^ʿ t -i	/	il- walad bitā ^ʿ -i
def- 少女 (所有) f sg -1sg gen		def- 少年 (所有) m sg -1sg gen
俺の彼女	/	私の彼
ig- gaww bitā ^ʿ -i	/	ig- gaww bitā ^ʿ -i
def- 天気 (所有) m sg -1sg gen		def- 天気 (所有) m sg -1sg gen
俺の彼女	/	私の彼

2) 社会階層の低い者との関係：

iš- šayyāla bitā ^ʿ t -i
def- 女中 (所有) f sg -1sg gen
うちの女中

3) 逆に、仕事で上位にある人との関係

il- mudīr bitā ^ʿ -i
def- ボス (所有) m sg -1sg gen
私のボス

4) 専門職におけるサービスに基づく関係

id- doktōr bitā^ʕ -ḥa
def- 医者 (所有) m sg -3f sg obl
彼女のお医者さま

さらに bitā^ʕ が好まれる場合として、bitā^ʕ に先行する名詞句が以下の3つの場合を挙げる (p.73) :

- 1) radiyo (ラジオ) や tilifziyōn (テレビ) のような外来語。
- 2) 双数形の名詞。

ik- kitāb -ēn bitū^ʕ -i
def- 本 -du (所有) m pl -1sg gen
私の本 (2冊)

- 3) il-ʿArabi (アラビア語) や il-ʾIngilīzi (英語) のような言語名。これらはもともと限定辞を伴っているため。

1.2.3 bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形との使い分け

Salib 1981. は、bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形との関係について次のように述べている (p.203) :

直接付ける属格の句と bitā^ʕ の句との間には、大きな度合の自由な相互交換性があるけれども、通常では相互交換が許されないいくつかの関係がある。既に述べたように、身体部分や親密な人間関係は、通常、直接付ける属格の句で表現されるのに対し、サービスに基づく関係や非永久的な人間関係は普通、bitā^ʕ の句で表現される。直接付ける属格の句はまた専ら、場所を名指したり計量のときに用いられる : lukandit Simiramīs (セミラミス・ホテル)、fingān ʾahwa (一杯のコーヒー)。

前項で言及した Al-Tonsi et al. 1987. もそうだが、bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形との関係について :

- 1) 両者にかかなりの相互交換性があること。
- 2) bitā^ʕ の用いられる例。
- 3) 通常は bitā^ʕ で表現できない関係 (身体部分や親族関係など) の存在。

といった点については述べられているが、bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形と、両方で表現可能な場合の、両者の意味合いの違い という点では説明不足である。

そうしたわけで、以下、本研究では、両者の意味合いの違い、さらには bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形それぞれの意味上の特性について考察していきたいと考える。

2 世界の言語の所有表現と bitā^ʕ のかわり

本節では、言語一般について言われる「可譲渡所有と不可譲渡所有」「所有傾斜」の2つの視点から、bitā^ʕ の特性について検討する。

2.1 可譲渡所有・不可譲渡所有と所有傾斜

まず、可譲渡所有と不可譲渡所有について、亀井他 1996: 219 は次のように説明している：

身体の部分や親族関係を表わす名詞（→親族名称）とそれに準じる名詞を常に所有構文（possessive construction）において用いたり、その他の名詞とは違った特別の所有構文において用いる言語が、世界には多々ある。それらの言語の記述において、「親族」や「身体の部分」などに共通する意味的特徴を、「所有者から切り離しては考えられない親密なもの」と捉え、そのような所有物を「不可譲渡所有（inalienable possession）」、また、それらを表わす名詞を「不可譲渡名詞（inalienable noun）」とよぶ。それに対して、この特徴をもたないすべての所有物を「可譲渡所有（alienable possession）」、それらを表わす名詞を「可譲渡名詞（alienable noun）」とよんで区別する・・・

この区別をさらに精密にしたものが、角田 1991: 119-121 の「所有傾斜」である：

身体部分（手、足、頭、髪など。および、汗、糞尿などの排泄物）

- > 属性（身長、体重、性質、健康状態、体温、意識など）
- > 衣類（衣服、眼鏡、靴などが、身に付けてある場合）
- > 親族（血のつながった親族、および姻戚や養子のように血のつながりのない親族）
- > 愛玩動物
- > 作品
- > その他の所有物

この所有傾斜について、角田 1991: 119-120 は「所有者と所有物の間の物理的なまたは心理的な近さ・密接さの程度を表わしていると言える」とも述べている。しかしまた角田自身、「言うまでもなく、この所有傾斜は絶対的なものではない」と言って、この階層の修正の可能性や必要性も認めている。

2.2 アラビア語エジプト方言における所有傾斜

本項では、bitā^c の出現を、上述の所有傾斜との関連で考察する。

既に、1.2.2や1.2.3でも触れたように、人間同士の親密な関係あるいは身体部分との関係を示すのに、bitā^c は用いられない。これらの関係は、上記の所有傾斜でも上位に位置付けられており、所有傾斜で上位にあるものほど、bitā^c が用いられにくく、逆に所有傾斜で下位にあるものほど、bitā^c が用いられ易いのではないかとの予測がたてられる。

そこで以下では、その所有傾斜の順に従って、bitā^c の適否を検討して行くことにする。

身体部分

通常の場合は、bitā^c の使用が許されない：

- 12) rās -i
 頭 -1sg gen
 私の頭

cf. *ir- rās bitā't -i
 def- 頭 f (所有) f sg -1sg gen

しかし、ジャンボ機の墜落現場などで傷んだ頭（つまり誰だか判別が容易でない状態）が多数転がっている状況で、捜索に来た警察関係者が、例えばザイドの頭部を発見して、

13) di -r- rās bitā't Zēd .
 これ f sg -def- 頭 f (所有) f sg ザイド
 これは、ザイドの頭だ。

と言うことは不可能とは言えない。ただしこのような言い方は、すでに死んでしまっているザイドをモノ扱いするような冷酷なニュアンスがある。例えば遺族など近しい者なら、bitā' を使わない表現をする。

ただし、身体部分でも肝臓や盲腸はなぜか bitā' が使えるが、その他の内臓（胃、心臓、脳味噌）には使えないといったばらつきもある。

またもちろん、身体部分としての頭でない場合は、bitā' の使用が可能である：

14) ir- rāgil da -d- dimāy bitā't il- 'iṣāba .
 def- 男 これ m sg -def- 頭 f (所有) f sg def- ギャング
 この男は、ギャングのブレインだ。

加えて、遺伝による類似を述べる際にも、身体部分に対して bitā' の使用が可能である：

15) da -š- ša'r bitā' 'umm-ik .
 これ m sg -def- 髪 (所有) msg 母 -2f sg obl
 （父が娘の髪について）これ（娘の髪）はお母さんゆずりの髪だなあ。¹⁰⁾

排泄物に関しては、所有者の体から離れた場合、例えば尿や血液などを検査のため採取した場合に、サンプルとして持ち去られたものなら：

16) il- būl bitā' 'Ali
 def- 男 (所有) m sg アリー
 アリーの尿

のように、bitā' を用いる。

属性 （身長、体重、性質、健康状態、体温、意識など）

通常の場合は、bitā' の使用が許されない。

17) wazn -u ziyāda .
 重量 -3m sg obl 余分
 彼の体重は（重量制限を）オーバーしている。

10) あるいは、この娘の母親が生前、髪の毛の収集をしており、そのコレクションを娘に渡すときにも言える。この場合は、髪は母親の所有物ではあっても、母親の身体部分ではないのである。

ここで、bitā^ʿ を用いると、意味が変わってしまう：

- 18) il- wazn bitā^ʿ -u ziyāda .
def- 重量 (所有) m sg -3m sg obl 余分
彼の(荷物の)重量は、(重量制限を)オーバーしている。

つまり、「彼自身の体の重量」ではなく、bitā^ʿ を用いると「彼の(所有物の)重量」の意味になるので、例えば、空港で手荷物を秤に乗せたら制限オーバーしていた、などというときには、後者の言い回しが見えるし、また十分自然である。

衣類 (衣服、眼鏡、靴などが、身に付けてある場合)

身に付けた衣服は、bitā^ʿ を使った表現も使わない表現も、どちらも可能であるが、bitā^ʿ を使うと、所有権を強調するニュアンスになる。

親族

血のつながりの有無にかかわらず、bitā^ʿ の使用が許されない。

1.2.2で以下のような例を挙げたが：

is- sitt bitā ^ʿ t -i /	ir- rāgil bitā ^ʿ -i
def- 女 (所有) f sg -1sg gen	def- 男 (所有) m sg -1sg gen
俺の女房(低階層の方言)	私の夫(田舎の方言)
il- bint bitā ^ʿ t -i /	il- walad bitā ^ʿ -i
def- 少女 (所有) f sg -1sg gen	def- 少年 (所有) m sg -1sg gen
俺の彼女	私の彼
ig- gaww bitā ^ʿ -i /	ig- gaww bitā ^ʿ -i
def- 天気 (所有) m sg -1sg gen	def- 天気 (所有) m sg -1sg gen
俺の彼女	私の彼

これらは慣用句であり、一般の親族名称とは区別して考えられるべきである。

愛玩動物

愛玩動物は、bitā^ʿ を使った表現も使わない表現も、どちらも可能であるが、bitā^ʿ を使うと、所有権を強調するニュアンスになる。

作品

作品は、bitā^ʿ を使った表現も使わない表現もどちらも可能であるが、bitā^ʿ を使うと、その作者であることを強調するニュアンスになる。文脈や状況がないと、次の「その他の所有物」と区別できない：

- 19) ik- kutub bitā^ʿit Ṭāhā Ḥsēn / kutub Ṭāhā Ḥsēn
def- 本 pl (所有) f sg ターハー・フサイン 本 pl ターハー・フサイン
(いずれも)ターハー・フサインの本(著書あるいは蔵書)

その他の所有物

その他の所有物もまた、bitā^ʿ を使った表現も使わない表現もどちらも可能であるが、bitā^ʿ を使うと、所有権を強調するニュアンスになる。

2.3 bitā^ʿ から見た所有傾斜に関する考察

前項での検討の結果、角田 1991 が提示した所有傾斜の順番と、アラビア語エジプト方言における bitā^ʿ の使用・不使用に関わる階層とは、多少異なることがわかった。さらに、新たな範疇を付け加える余地もあるものと思われる。そのようなわけで、bitā^ʿ の使用状況という視点から見れば、以下のような順列が立てられるであろう：

親族

親族ではないが、心理的に近い者

友人 (ṣāḥib)、婚約者 (xaṭīb)、恋人 (ḥabīb)、神・主 (rabb)。これらに bitā^ʿ は使いにくい。

属性 (人間の声 ṣōt はここに含まれるが、いびきやくしゃみは下の 排泄物の扱いである)

身体部分

排泄物 (血液やいびき、指紋などを含む)

身に付けた衣類 (眼鏡や入れ歯を含む)

愛玩動物、作品、その他の所有物。

この階層で、上位に行くほど bitā^ʿ の使用が制限され、下位に行くほど制限が緩やかになる。特に、 とでは bitā^ʿ が使えない。ただし、 の範疇については、もう少し考察を加える必要があるであろう。

また同様に、 属性の要素についても、 身体部分や 排泄物との関連や区別という点で、さらに厳密な検討を要する。例えば、行動なども属性に入る可能性があるかもしれない：

20) ṣalāt -i
礼拝 -1 sg gen
私の礼拝

と言うが、これを bitā^ʿ を用いて、

21) * iṣ- ṣala bitā^ʿit -i
def- 礼拝 f (所有) f sg -1 sg gen

ということはできない。ただし、2人称・3人称ならば、bitā^ʿ を用いた表現も可能である：

22) iṣ- ṣala bitā^ʿit Asahara yarība .
def- 礼拝 f (所有) f sg 麻原 奇妙な f sg
麻原の祈りは奇妙だ。

3 bitā^ʕ と名詞・代名詞の属格形とが交換可能な場合

前節では、アラビア語エジプト方言における所有傾斜の順列を、bitā^ʕ の使用を基準に設定した。この順列の下位に分類された範疇では、bitā^ʕ と名詞や代名詞の属格形との両方が用いられ得るのであった。

本節では、そのような場合、bitā^ʕ と名詞や代名詞の属格形との間にどのような意味合いの違いがあるかを見ていきたいと思う。

3.1 親密性について

例えば、次の2例を比較してみると：

23) bēt Haruko
家 ハルコ
ハルコの家

24) il- bēt bitā^ʕ Haruko .
def- 家 (所有) m sg ハルコ
ハルコの持ち家

bitā^ʕ を使わない場合は、ハルコの住んでいる家であれば、持ち家でなくてもよい。しかし、下の例のように、bitā^ʕ を使った表現では、ハルコがその家に住んでいる場合もあるが、住んでいなくても持ち家である（他人に貸しているなど）、という可能性が高い。

前項で見たように、所有傾斜の上位に位置する、所有者から近く密接な関係のあるものほど、bitā^ʕ を使いにくかった。逆に言えば、そのような密接さを表わすのが名詞や代名詞の属格形であるのに対して、bitā^ʕ を使った表現では密接さ・親密さよりも、所有権を強調するようなニュアンスが出てくる：

25) madrast -i
学校 -1sg gen
私の通っている学校

26) il- madrasa bitā^ʕ -i
def- 学校 f (所有) f sg-1sg gen
私の学校

後者のように bitā^ʕ を使った表現では、私が通っている（学生として、または教職員として）学校という以外に、私の経営する学校という意味もでてくるのである。

であるから、例えば同じ入れ歯について言うのであっても、家の中でおじいさんが自分の入れ歯を探すときには、bitā^ʕ を使わずに、

27) ʔa'm sinān -i fēn ?
セット 歯 pl -1sg gen どこ
わしの入れ歯はどこじゃ？

と言わないと、奇妙なことになるが、入れ歯の製作所などで、たくさんある入れ歯の中から、自分が注文した入れ歯を選んで持ってきてもらう場合なら、

- 28) iddī -ni ʔa'm is- sinān bitā' -i.
くれる i mpr -1sg acc セット def- 歯 pl (所有) f sg -1sg gen
私の入れ歯を下さい。

と bitā' を用いる。これを家の中でおじいさんが自分の入れ歯を探すときに言ったら、その家に老人沢山おり、入れ歯が複数存在する状況下でなければならない。自分の入れ歯を他の人の入れ歯と対比するような意味あいがあるのである。

また、店先などであっても、語気などによっては、例えばその店なり製作所なりとトラブルになり「もうこんなところとは縁切りだ。俺の入れ歯を返してくれ」といった、喧嘩腰のニュアンスも出てくる。

このように、bitā' の使用には、文脈に依存する部分がかなり大きいと言える。

また、属性は一般には bitā' を使うことができないが、例えば、語学力などについて：

- 29) il- yabānī bitā' Haruko kwayyis.
def- 日本語 (所有) m sg ハルコ 良い
ハルコの日本語はうまい。

のように、bitā' を使うと、ハルコが日本人ではなくて、勉強して日本語を覚えた、あるいは、日本人であっても、通訳など、特殊な専門レベルの高度な日本語を身に付けている、ということになる。いずれにせよ、母語として自然に身に付く日本語のことではない。母語のような親密性に欠けた外国語や特殊レベルの言語である。

3.2 関係の明示

さらに、bitā' には、多数ある要素の中からある特定のものを切り取って選び出し、その関係を示す意味あいもある。例えば、先程の入れ歯の例文（27、28）でも、そのような意味あいが見られた。

例えば、警察関係者がイスラム過激派のメンバーについて：

- 30) il- wilād bitū' ig- gama'āt il- 'Islāmiyya
def- 男の子 pl (所有) pl def- 集団 def- イスラムの
イスラム集団のやつら

というと、イスラム集団 がらみ の特殊な人たちといった意味あい、さらにはそれに伴う蔑視的なニュアンスが出てくるが、これを、

- 31) wilād ig- gama'āt il- 'Islāmiyya
男の子 pl def- 集団 def- イスラムの
イスラム集団の青年たち

というと、彼らを一般市民の一部として認めているような言い方になってしまう。逆に、例えばサッカー・チームのメンバーのことを、

- 32) wilād il- Ahlī
男の子 pl def- アハリー
アハリー（サッカー・チームの名前）の青年たち

と、bitā^ʿを用いずに言うのは普通である。

- 33) il- wilād bitū^ʿ il- Ahlī
def- 男の子 pl (所有) pl def- アハリー
アハリー関係の青年達

というと、アハリーのサポーターたちの意味である。選手という可能性もあるが、もし、選手という意味だとすると、ここでは、ザマーレク・チームやテルサーナ・チームの選手達でなくアハリーの、という対比的な選び出しの意味あいを伴う。

さらに、32の言い回しは「善戦した」等のよい行いを述べる際に用いることが出来るが、例えば「競技場で暴力沙汰を起こした」のような反社会的な行動については、アハリー・ファンは別にして、普通のエジプト人であれば、33の bitā^ʿ を使った言い回しを用いるであろう。

関係を示す別の例として：

- 34) ir- rāgil bitā^ʿ il- laban
def- 男 (所有) m sg def- 牛乳
牛乳屋さん

のように、職業を示す言い方がある。つまり、牛乳関係の男、ということであるが、これをもし：

- 35) rāgil il- laban
男 def- 牛乳
牛乳の男

と言うと、牛乳で出来た男、である¹¹⁾。

3.3 親密性の度合いと関係の明示の相互作用

上述の親密性の有無や関係の明示という因子は、もちろん独立して作用するものではなく、相互に関連しながら働いている。次の2例を比べてみよう：

11) しかしもう少しまともな可能性として、例えば牛乳生産量全国一の農家のご主人がもらう「牛乳王」という賞の名前、ということはある。

36) kubbāyit il- mayya
コップ def- 水
水の入ったコップ、コップ一杯の水

37) ik- kubbāyit bitā'it il- mayya
def- コップ (所有) f sg def- 水
水を入れるためのコップ

上の36の例では、コップに水が入っているという状態で、コップと水の間に親密な関係が発生しているのに対し、37の例では、水専用のコップという、水とコップの関連を示すものであるが、両者間の親密感を要求するものではない。つまりこの場合、実際に水がコップの中に入っているかどうかは、差し当たり問題ではない。

また、同じ対象について言う場合でも、文脈・状況によって異なる表現を取る場合がある。

38) kubbāyit Haruko
コップ ハルコ
ハルコのコップ

例えば、ハルコの所有するコップというだけでなく、例えば、よそのうちにお夕御飯に呼ばれたハルコが、その食事中に使っているコップということにもなる。しかし、その同じコップについて、例えば、別の人が、そのコップを間違えて使いそうになったとき、それを注意する場合ならば：

39) di -k- kubbāyit bitā'it Haruko!
これ f sg def- コップ (所有) f sg ハルコ
これは、ハルコのコップです！

のように、コップとハルコの間を明示するため bitā' を用いた言い回しを使う。

4. まとめ

本発表では、正則アラビア語にはない bitā' という表現を取り上げ、名詞・代名詞の属格形との比較を中心に、その意味や用法について考えてみた。

まず、bitā' の使われ方を類型論の立場から見ると、それは「所有傾斜」と深くかかわっていることが明らかとなった。所有傾斜が修正される可能性のあることは、提唱者の角田 1991. 自身も述べていたことであるが、アラビア語エジプト方言においても、例えば愛玩動物が「その他の所有物」と同列に扱われるなど、言語社会の価値観などによる序列の変化が見られた。

さらに、名詞・代名詞の属格形との交換が可能な例を検討した結果、bitā' は関係を明示したり対比の意味をあらわすことが見て取れた。また、名詞・代名詞の属格形と異なり、2つの対象の間に必ずしも親密性・密接性を要求しない。しかし、それらは文脈に依存する部分が大きく、名詞・代名詞の属格形と bitā' を用いた表現との間に明確な線を引くことは出来ない。

Appendix

音声の表記には、以下の文字を用いる（マルタ方言を除く）：

子音	b	有声両唇閉鎖音	g	有声軟口蓋閉鎖音
	m	有声両唇鼻音	x	無声口蓋垂摩擦音
	f	無声歯唇摩擦音	ɣ	有声口蓋垂摩擦音
	t	無声歯歯茎閉鎖音	q	無声口蓋垂閉鎖音
	d	有声歯歯茎閉鎖音	ħ	無声咽頭摩擦音
	s	無声歯歯茎摩擦音	ʕ	有声咽頭摩擦音
	z	有声歯歯茎摩擦音	ʔ	声門閉鎖音
	n	有声歯鼻音	h	無声声門摩擦音
	ʃ	無声歯茎硬口蓋摩擦音	l	有声歯歯茎側音
	k	無声軟口蓋閉鎖音	r	有声歯茎ふるえ音
なお咽頭化音は下点を付して表す。				
半子音	w	両唇軟口蓋音	y	硬口蓋音
母音	a	低非円唇短母音	ā	低非円唇短母音
	i	高～中前舌非円唇短母音	ī	高～中前舌非円唇短母音
	u	高後舌円唇短母音	ū	高後舌円唇短母音
	e	低中前舌非円唇短母音	ē	低中前舌非円唇長母音
	o	低中後舌円唇短母音	ō	低中後舌円唇長母音

グロスでは以下の略号を用いる：

acc	対格	nom	主格
def	限定辞	obl	斜格
du	双数	pf	完了形
f	女性	pl	複数
gen	属格	sg	単数
impr	命令形	1	一人称
indef	非限定	2	二人称
m	男性	3	三人称

参考文献

Badawi, El-Said & Hinds, Martin. 1986. A dictionary of Egyptian Arabic. Lebanon, Librairie du Liban.

Ad-Dusūqī, Muḥammad ‘Alī 1920. Tahṣīb-u-l-‘alfāḍ-u-l-‘ammīyyah. Place Unknown, Maṭba‘ah al-Wā‘iḍ.

亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 編著. 1996. 『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京、三省堂。

黒柳 恒夫・飯森 嘉助. 1976. 『アラビア語入門』東京、泰流社。

Salib, Maurice B. 1981. Spoken Arabic of Cairo. Cairo, The American University in Cairo Press.

Al-Tonsi, Abbas, Al-Sawi, Laila & Massoud, Suzanne. 1987. An intensive course in Egyptian Colloquial Arabic: Part (I). Cairo, The American University in Cairo.

角田 太作. 1991. 『世界の言語と日本語』東京、くろしお出版。